

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	実践課題制作	
科目基礎情報							
開設学科	W e bクリエイター科		コース名		開設期	前期	
対象年次	3年次		科目区分	必修		時間数	180時間
単位数	6単位		授業形態	実習			
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	関口・山口・藤田			実務経験の有無・職種	有・プログラマー（関口）		
学習目的							
カスタマージャーニーマップを作成できる。顧客を意識した機能設計ができる。 UI/UXの効果的な配置、デザイン、動きを実装することができる。 顧客の動きや購買行動を意識した上で、どのような機能やWebサイト、またはアプリ、印刷物を提供したら良いかを考察し、要件定義などを通し必要な機能の洗い出しと実際の実装過程までを通して学習する。 現在のWeb制作、特にフロントエンドで必要な知識を習得する。							
到達目標							
フロントエンドで必要な知識を習得し、活用することができる。 サーバーサイドとの連携を行うことができ、役割分担を考察すること、連携のやり方を把握することができる ユーザー分析を通じて、効果的なWebサイト戦略、さまざまなメディアを活用した複合的なアプローチや有機的な連携をどのように行うことが最適解かを分析する能力を身につける 分析した結果を元に相手に最適なデザイン提案ができる							
教育方法等							
授業概要	これまで学習してきたWeb制作に必要な知識を動員して、1つの成果物を作り上げて行く。 不足している技術知識のブラッシュアップを行っていく。 マーケティング知識やユーザー行動に即したデザイン提案などの能力を身につける。						
注意点	本授業で扱う内容は、連続した知識が必要となるため、授業の欠席があった場合、必要な知識が欠如する可能性が高く、必要な知識が習得できなくなるため、可能な限り欠席をしない。 授業内で得た知識を直ぐに利用して、次のことを行うため、自己による復習、活用が必要である。授業時数の4分の3以上出席しない者は課題提出とプレゼンテーションの実施ならびに評価を受けることができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する				
	成果発表 （口頭・実技）	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	プロトタイピングツールとWebデザイン作成			Adobe Xdの使用方法が理解できる。プロトタイプを作成できる			
2回	Sassの記述と利用			SassによるCSS記述方法、CSSへの変換方法を習得する。複数ファイルからの統合も行う			
3回	Nodeの利用			NodeおよびNPMを利用したタスクツールを理解し活用する。コマンドが理解できる			
4回	Ajax連携、REST概念			Ajaxを通じたサーバーサイドとの連携を理解する。RESTの概念を理解する			
5回	PHPの記述、データの受け渡し			PHPの記述方法を理解し、クライアントサイドとのデータ受け渡し方法が理解できる			
6回	PHPによるAjax出力			PHPからのHTTP返却、HTMLとの連携、RESTAPIとして使えるメソッドの実装ができる			
7回	データベースの扱い			データベースの基礎的な知識とPHPからの連携、データ取得、挿入ができる			
8回	カスタマージャーニーマップの概略、タッチポイントの認識			ユーザーとのタッチポイントを検討し、最適なマーケティング戦略を考察することができる			
9回	現状解析、要件定義、ペルソナの創造			現状解析をした上で、ペルソナを想定し、ペルソナの満足を満たす要件定義を作成できる			
10回	カスタマージャーニーマップの作成			想定したペルソナに即したカスタマージャーニーマップの作成ができる			
11回	プロトタイプの作成			カスタマージャーニーマップに基づき、プロトタイプを作成し、フィードバックを得ることができる			
12回	デザインの作成			フィードバックに基づいてデザインを作成することができる。仮説を検討することができる			
13回	コーディングおよびインタラクション作成			作成したデザインに基づき、アセットなどを用いてパーツを作成する			
14回	コーディングおよびインタラクション作成			作成したデザインに基づき、HTMLおよびCSS、JavaScriptを構築することができる			
15回	コーディングおよびインタラクション作成			構築した要素を結合し、テストができる。テストで不合格の内容を修正することができる			